

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部 診療放射線学科

名前 八重樫 祐司

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

診療放射線技師の職務の一分野であり、国家試験科目でもある放射線治療技術に関する教育を中心にしている。具体的な科目としては、放射線治療技術学Ⅰ～Ⅳ、医用物理学実験、放射線計測学実験、診療放射線学概論、総合演習Ⅲ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ、臨床スタートアップ、卒業研究指導などを担当している。

### 【理念】

学生を国家試験に合格させ、高度な技術と知識をもつ診療放射線技師を育成するのが最大の目標であり理念である。国家試験の分野でも放射線治療技術学は出題数が多く、その知識の定着は合格に向けて重要な要素となる。また、放射線治療では一つのミスががん患者さんに重大な有害事象を生じさせる危険性があり、知識の正確性を担保することも重要である。

国家試験以外の目標に関しては、将来、医療従事者になることを想定し、がん患者さんに対する献身的な姿勢や考え方を身に付けて卒業できることを目標としたい。また、がんに関する幅広い知識を身につけることで標準治療としての放射線治療の位置づけを理解し、最終的には、高精度放射線治療の技術の取得と患者さんへの精神的なサポートの両面に対応できる人材の育成に努めたい。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、以下の方針・方法で活動している。

- 放射線治療分野の正確な知識の習得のために、体系的に記述されている教科書に加えて、パワーポイント等による資料の活用を必須として講義を行っている。資料では厚生労働省の診療放射線技師国家試験出題基準を完全に網羅するように作成しており、受験対策にも直結するように工夫している。また、最新の放射線治療技術に関するアップデートも可能な限りリアルタイムに行っている。
- 放射線量の計算過程については、放射線の計測理論から系統的に講義しており、実務でのダブルチェック時にミスに気づく能力を育てている。
- 患者さんに対する姿勢に関しては、私が病院勤務時代に行ってきた25年間の放射線治療の経験を活かし、数々のエピソードを講義中に話すことで医療従事者としての自覚と喜びを学んでほしいと考えている。

### 【成果・評価】

- 国家試験においては、私が担当する放射線治療分野の成績が向上している。
- 全体としては国家試験合格率も95%以上と安定しつつある。
- 授業アンケートでは概ね高い評価を得ているが、資料が多いとの指摘がある。

### 【目標】

国家試験の合格率の向上と高い合格率の維持が短期的な目標である。長期的には、将来、放射線治療を志す学生が増えるようにその魅力も伝えていきたい。また同時に、大学院へ進学して医学物理士の資格にチャレンジする学生も増やしたい。